

第 291 回 日本皮膚科学会岡山地方会 第 92 回 総 会

◇専門医後実績 機構認定専門医制度（新専門医制度）の方

（重要）単位付与の受付時間がセッション開始30分前～開始15分後までとなりました（日本皮膚科学会理事会において決定）。

皮膚科領域講習

- ・ 13：30-14：15の間に受付されて最後まで出席された方は、2単位（皮膚科領域講習）（一般演題1 + 2）取得できます。
- ・ 14：16-16：15の間に受付されて最後まで出席された方は、1単位（皮膚科領域講習）（一般演題2）取得できます。
- ・ それ以降に受付された方は、単位取得できません。

学術業績

- ・ 13：30-16：15の間に受付された方は、1単位（学術業績）取得できます。（ただし1年で2単位、5年で6単位まで）

WEB参加の方法と単位認定については、別紙をご参照ください。

日 時 2024年1月20日（土）14時00分

場 所 岡山コンベンションセンター
1Fイベントホール

岡山市北区駅元町14-1

TEL.(086)214-1000

岡山地方会新年会

2024年1月20日（土）総会終了後

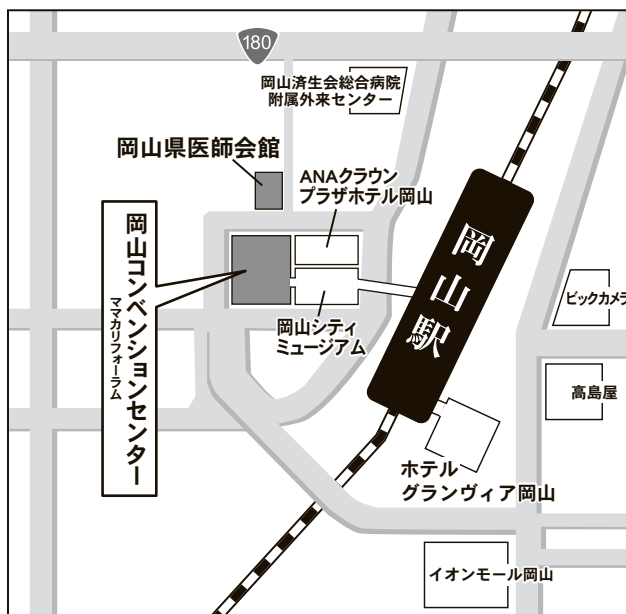
岡山コンベンションセンター 2F レセプションホール

会費：会費：5,000円

当日地方会受付にて17時30分まで（厳守）徴収します。

領収証が必要な方は、ご希望の宛名を明記のうえ、

メール又はFAXにて事前に事務局までお知らせください。



地方会会場：岡山コンベンションセンター

J R 岡山駅中央改札口より徒歩 3 分

Let's MICE
MICE : Meeting Incentive Convention Exhibition

岡山コンベンションセンター
ママカリフォーラム

〒700 0024
岡山市北区駅元町14番1号
TEL. 086-214-1000
FAX. 086-214-3600
E-mail: occ-info@mamakari.net

<http://www.mamakari.net>

I 一般演題 1 (発表7分, 討論7分)

(所属は抄録提出時のものです)

14:00~

座長: 馬屋原孝恒 (岡山地赤)

1. *Trichophyton rubrum*による左前腕白癬菌性肉芽腫の1例

○奥村健悟 (おくむら けんご), 杉山聖子, 青山裕美 (川崎医大),
山本剛伸 (川崎医大総合医療センター), 岡 大五 (倉敷市)

79歳, 女性。リウマチ性多発筋痛症に対しPSL10mg/日内服中。糖尿病あり。2か月前より左前腕に小膿疱, 面皰の多発する紅色局面を形成。膿疱内容KOH, 皮膚生検で多数の菌糸を認め, 真皮内肉芽腫形成を認めた。血中 β Dグルカン20.4pg/mL。生検組織, 膿, 爪の真菌培養で*T.rubrum*を同定, 右手爪白癬から搔破で生じた白癬菌性肉芽腫と診断。抗真菌薬内服のみでは面皰が残存したがPSL減量により消退。

2. ムカデ咬傷により横紋筋融解症となった2例

○稲垣充亮 (いながき みつよし), 宮脇秀徳, 日置紘二郎, 杉山聖子, 青山裕美 (川崎医大)
症例1は87歳, 女性。リウマチ性多発筋痛症でPSL2mg内服中。ムカデに咬まれ腫脹疼痛を主訴に受診。CK6万U/L, 肉眼的血尿あり横紋筋融解症と診断, 保存的に加療したが透析を要した。症例2は76歳, 男性。基礎疾患無し。ムカデに咬まれ受診。CK8000U/L, 尿潜血3+であった。筋生検で筋壊死を認め横紋筋融解症と診断, 保存的に加療した。ムカデ咬傷が誘因の横紋筋融解症は本邦では報告なく考察を加え報告する。

3. 経口ダニアナフィラキシー (パンケーキ症候群) の1例

○松本真理 (まつもと まり), 水田康生, 谷本尚吾, 宮本 亨 (津山中央)

25歳, 女性。自宅で作ったお好み焼きを摂取後, 腹痛, 下痢, 喉頭違和感が出現したため救急外来を受診。その際アナフィラキシーショックとなった。今まで小麦粉製品摂取でアレルギー症状がでたことはない。常温保存のお好み焼き粉を使用したこと, ダニ抗原特異的IgEがクラス5と強陽性であったことからパンケーキ症候群を疑った。被疑粉内にダニ虫体を認め, プリックテストで被疑粉とダニアレルゲンエキスが陽性であった。

4. レナリドミド水和物投与後に薬剤性血管性浮腫を来した1例

○高須賀琴巳 (たかすか ことみ), 加藤あずさ, 光井聖子, 馬屋原孝恒 (岡山地赤),
新谷大悟, 竹内 誠 (同血液内科)

87歳, 男性。多発性骨髄腫に対し, レナリドミド水和物およびデキサメタゾン, ST合剤の内服が開始された。2日後から顔面紅斑と浮腫が出現し当科紹介受診した。頸部などの紅斑とともに右眼瞼全体に著明な浮腫を認め, 開眼困難であった。C4値は正常で皮膚病理組織像などから, レナリドミド水和物による薬剤性血管性浮腫と診断し, 3日間のPSL30mg/日内服し症状は軽快した。診断過程および文献的考察を含めて報告する。

5. 間質性肺炎を合併した汎発型斑状強皮症の1例

○横溝紗佑里（よこみぞ さゆり）、池澤勝吾、藤田周作、石浦信子、
浅越健治（岡山医療センター）、渡邊洋美（同呼吸器内科）

60代、女性。X-6年に前胸部、腹部等に光沢局面を認め、生検組織とあわせて汎発型斑状強皮症（GM）と診断。皮疹は拡大しプレドニゾロン（PSL）30mg/日内服開始、漸減し3mg/日で維持。X年微熱、呼吸困難を認めCT所見から間質性肺炎（IP）と診断。PSLパルス療法が著効したが再燃ありシクロフォスファミドを追加。IP発症再燃時ともに皮膚所見の増悪はなかった。GMとIPの合併例はきわめて稀である。

6. オトガイ部の生検から診断に至った全身性ALアミロイドーシスの1例

○坂田伽奈子（さかた かなこ）、川上佳夫、横山恵美、森実 真（岡山大）、
長谷川 功、中野靖浩、大塚文男（同総合内科）、白藤宜紀（岡山労災）

81歳、男性。6ヶ月前より口唇、オトガイ部、舌部を主体とする腫脹と顔面、体幹部の紫斑が出現し当院を紹介受診。口唇腫脹部、側腹部紫斑部の生検で特異所見は得られなかったが、再度オトガイ腫脹部より生検し、真皮全層にアミロイドの沈着を認めた。さらに胃粘膜、骨髓生検でもアミロイドの沈着があり、血液検査でIgGλ型のM蛋白を認め、免疫染色の結果も合わせて全身性ALアミロイドーシスと診断した。

7. 低亜鉛母乳によって一過性乳児亜鉛欠乏症をきたした1例

○谷口真菜（たにくち まな）、加持達弥、戸井洋一郎（広島市民）、宮原大輔（同小児科）

5ヶ月、男児。第7子。生後3ヶ月頃より顔面、頭皮、陰部、四肢に鱗屑を伴う紅斑と膿疱が多発したため当院を受診した。膿痂疹の可能性も考え、抗生剤内服とステロイド外用を開始した。採血にて患児の亜鉛濃度は $27\mu\text{g}/\text{dl}$ と低値であった。母乳中亜鉛濃度は $20\mu\text{g}/\text{dl}$ と低値だが、母親の血中亜鉛濃度は $78\mu\text{g}/\text{dl}$ と正常であった。低亜鉛母乳による一過性乳児亜鉛欠乏症と診断し、亜鉛の内服を開始した。

II 一般演題2（発表7分、討論7分）

（所属は抄録提出時のものです）

16：00～

座長：鈴木規弘（岡山市）

8. 電撃性ざ瘡の1例

○眞部恵子（まなべ けいこ）、榊原絵美優、稲井雅光、藤原 暖（高松赤十字）

15歳、男児。12歳頃から顔面、胸背部にざ瘡様皮疹あり近医にて加療されていたが15歳になり急速に悪化。発熱も伴うため紹介。両膝関節痛あり。家族に類症なし。プレドニゾロン中等量で効果不十分、TNF α 阻害剤は開始当初効果あるも著効せず発熱が続き、DDSが一旦著効するも再燃あり、シクロスポリンも併用しつつプレドニゾロンの減量を図っている。PAPA関連疾患の可能性も考えたが、既知の遺伝子変異は認めず。

9. スニチニブにより発症した化膿性汗腺炎の1例

○小池貴之（こいけ たかゆき），山崎 修（島根大）

60代，男性。9年前より再発性GISTに対してスニチニブが断続的に投与されていた。8ヶ月前頃より左大腿に排膿を伴う紅色局面が出現し，軽快しないため当科を紹介受診。生検では表皮から連続して重層扁平上皮で裏打ちされた嚢腫構造と好中球性膿瘍を認めた。ドキシサイクリンを開始し，縮小傾向であった。チロシンキナーゼ阻害剤であるスニチニブによる壊疽性膿皮症の本邦報告はあるが，化膿性汗腺炎の報告はない。

10. 本態性血小板血症により足潰瘍をきたした1例

○澤井希望（さわい のぞみ），岡崎布佐子（岡山市民），河村浩平（同循環器内科），山本和彦（同血液内科）

86歳，女性。本態性血小板血症の加療中にヒドロキシカルバミド（ハイドレア[®]）が原因と思われる下腿潰瘍，静脈うっ滞性下腿潰瘍を加療したが治癒。その後左足外側に潰瘍が出現し，造影CTで左大腿動脈の閉塞を認めたことから，本態性血小板血症の血小板数増加による血管閉塞が考えられた。末梢血管治療により血管は開通するも，1か月後に左大腿動脈の再閉塞を起し潰瘍も改善せず。下肢血管バイパス術目的に転院となった。

11. 難治性下腿潰瘍の精査により診断したKlinefelter症候群の1例

○川本雅也（かわもと まさや），三宅智子，神野泰輔，高須賀琴巳，別木祐介，松本真理，澤井希望，川上佳夫，森実 真（岡山大），浅田 騰（同血液腫瘍内科），戸田洋伸（同循環器内科）

58歳，男性。X-20年よりBurger病，肺動脈塞栓症や深部静脈血栓症にて加療歴あり。X-5年から右下腿に潰瘍を認め，うっ滞性皮膚潰瘍として保存的加療されたが増悪。X-4年に植皮術を3回行ったが生着不良であり，当科紹介。壊疽性膿皮症や皮膚感染症等を疑った。皮膚培養陰性，CTにて腸炎の所見なし。骨髓異形成症候群除外目的に行った骨髓穿刺の結果，核型47XXYのKlinefelter症候群と診断。

座長：日置紘二郎（川崎医大）

12. BRAF/MEK阻害薬により左腋窩リンパ節が縮小し手術を施行したが，ぶどう膜炎を合併した左前胸部悪性黒色腫の1例

○村田愛美（むらた まなみ），立花宏太，神野泰輔，森実 真（岡山大），金道寛弥（同眼科），荒川謙三（岡山済生会）

52歳，女性。初診2年前より左前胸部に黒色斑を自覚。初診時，21×16mm大の一部潰瘍形成した黒色扁平局面と左腋窩リンパ節の腫大（5cm）を認めた。PET-CTでは遠隔転移はなく，BRAFV600E遺伝子変異を認めた。手術困難としダブラフェニブ/トラメチニブ併用療法を開始。リンパ節は著明な縮小を認め，内服4ヶ月後に左腋窩リンパ節郭清術を施行した（ypT2aN3）。その後も術後補助療法として内服療法を継続していたが，6ヶ月後にぶどう膜炎を合併し中止した。

13. 太田母斑上に基底細胞癌が発生した1例

○長尾僚祐（ながお りょうすけ），辻野美緩，篠倉美理，吉富恵美，荒川謙三（岡山済生会）
66歳，女性。出生時より右顔面に太田母斑あり。幼少時に何らかの治療を受けたとのことだが詳細不明。X-4年前より右こめかみに腫瘤を自覚。受診時，太田母斑の上に3×2cmの黒褐色結節が見られた。皮膚生検で基底細胞癌と診断。切除術+全層植皮術を行った。

14. トモセラピーにて局所制御し得た頭部血管肉腫の1例

○田中 了（たなか りょう），益子礼人，中原由紀子，青山裕美（川崎医大），釋舎竜司，渡邊謙太，河田裕二郎，勝井邦彰（同放射線腫瘍科），野村隼人，森実 真（岡山大）
70歳代，男性。頭部から顔面頸部に境界不明瞭な紫紅色調局面が広がり，生検にて血管肉腫と診断。パクリタキセルとトモセラピーを用いた化学放射線治療を開始した。治療完遂時にGrade 3から4の皮膚潰瘍を生じたが，局所制御し得た。リニアックの電子線治療では，頭部の曲面や病巣間のつなぎ目の線量の不均一性が問題であったが，トモセラピーを用い病巣に均一に照射できた。今後，皮膚がんにおける適応例の増加が期待される。

Ⅲ 第92回 日本皮膚科学会岡山地方会総会

第 292 回 日本皮膚科学会岡山地方会演題募集

日 時：2024 年 4 月 27 日（土） 14：00 より

会 場：岡山コンベンションセンター

演題締切：2024 年 2 月 11 日（日） 必着

出題方法：出来るだけメールにて事務局アドレスまでお申し込みください。

- 件名は「岡山地方会演題申込み」とご記入ください。
- 演題締切日以後、3 日を経過しましても受領確認メールが届かない場合は、必ずお問い合わせください。

プログラム用抄録兼日皮会誌用抄録：様式は問いませんが下記要領を厳守の上、Word にて作成しメールに必ず添付してください。

- 抄録用紙に「スライド供覧」「一般演題」の別を明記。
- 題目：字数制限なし。 ◦ 本文：200 文字以内
- 演者名：口演者に○印。姓名の間にスペースを入れない。但し姓または名が一文字の方は○スペース○○，○○スペース○とする。
- 所属：「病院」は省略。（○○）（岡山大）（同内科）（岡山市）等。
- 英字表記：半角で記入。題目、本文中の固有名詞、菌名（必ずイタリック体）以外はすべて文頭でも小文字。
- 数字：算用数字を使用（…の 1 例。65 歳。）

《
見
本
》

一般演題

……………の 1 例

○岡 一郎, 岡山 一, 岡山二郎（岡山済生会）, 岡山花子（同内科）
65 歳, 男性。……………。

事務局：〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学分野内

日本皮膚科学会岡山地方会事務局

e-mail：dermaok-npo@cdo.sakura.ne.jp

FAX：050 - 3488 - 8350

【お知らせ】

第 293 回 日本皮膚科学会岡山地方会

2024 年 9 月 1 日（日） 13：00（予定）

岡山コンベンションセンター